

令和5年2月1日(水)

第4回静岡県立裾野高等学校運営協議会 議事録

1 開会

2 校長挨拶

3 議事

(1) 教育活動年次報告

①総務図書課

ア PTA 活動の充実

PTA 総会の出席率は全校の 20.92%。本年度は土曜日開催を試みたが期待していたほどの参加率には至らなかった。来年度については平日開催を予定している。緑化作業を今年度は行うことができ PTA から 25 名以上の参加者があり、ご協力に感謝している。

イ 式典の円滑な運営

コロナ禍のため、従来のような式典運営は困難であったが、リモート開催によりスムーズな運営ができるようになった。ICT 機器の整備や運営の向上を随時図っていききたい。

ウ 危機管理意識の高揚

避難訓練は雨天対応の訓練を行うことができた。地域防災訓練への積極的な参加を促してはいるものの、コロナの影響もあってか、参加率が 12%程度にとどまっている。地域の担い手としての自覚を育てる指導が必要だと感じている。

エ 図書貸し出し数の向上

一人当たり貸し出し数が 3.97 冊（昨年度は一人当たり約 1 冊）と大幅に上昇した。図書便りの発行や図書委員会の生徒が頑張りによるところが大きい。図書館を利用する生徒もだいぶ増えてきたように感じる。

②教務研修課

ア 新教育課程の研究

今の 1 年生から観点別評価が導入され、新教育課程も実施されている。評価のあり方について各教科の教員は苦心しながら、1・2 学期の評価をつけている。特に問題なく実施できている。より良い評価のあり方について研究を継続していく。

イ 学習意欲の向上

家庭学習時間平均 19 分、ほとんど学習しない生徒が 51%という結果。各教科で課題なども出してもらっているが、調査時期がテスト直後だったということもあり、数値が低くなってしまったと考えている。来年度については一人一台端末も導

入されるので、それらも活用して学習時間を少しでも増やしていけるよう努力していく。

ウ ICT 活用に関する研修の充実

今年度については、教員をいくつかのグループに分け、ICT 機器活用向上の研修を行った。2 学期に中間発表、3 学期に最終発表を行うなど、意欲的に取り組んでいる。業者を呼んでのロイロノートに関する活用研修も行い好評であった。

エ 基本的な生活習慣の確立

出席率はほぼ昨年度と変わらず、約 98%。遅刻は昨年度比マイナス 29%、早退マイナス 26%と大幅に減少した。

③生徒課

ア 社会に適応できる基本的な生活習慣の確立に向けた指導の充実

前年度より指導件数は増えてしまったが、問題行動の傾向としては、SNS の不適切使用や怠業が増加した。SNS については適切な使用の指導、外部業者に委託してスマホ依存度を診断するなどしている。怠業増加については、コロナ禍の影響もあるように思われる。継続して指導していく。

イ 五龍祭・球技大会について

五龍祭については一部制限があったが開催することはできた。生徒会の仕事にやりがいを感じている生徒会役員は 100%であった。球技大会はコロナのため実施できなかったが、平常になれば生徒も楽しみにしている行事なので実施していきたい。

ウ 交通安全指導について

生徒が大けがをする事故が今年度 3 件起きてしまった。交通安全教室の開催や、警察署と連携した交通安全委員による朝の呼びかけ運動などは実施することができた。来年度は事故が起きないように粘り強く指導していきたい。

エ 青少年の関わる犯罪、不審者への対応などについて啓蒙指導について

SNS の不正使用が著しく増加し、生徒指導回数も増えた。注意喚起のために全校集会、学年集会など何度も実施した。

④進路課

ア 3 年生の進路決定及び 1・2 年生の明確な進路目標の設定

3 年生の第 1 志望就職内定率場 90%以上、第 1 志望進学合格率も 90%以上とどちらも目標を上回ることができた。求人数が増加傾向にあることに加え、担任を中心にきめの細かい進路指導をすることができた。進学指導は各教員に個別の指導をお願いしており、その成果もあった。

イ 進路行事の充実

生徒は自分自身の進路に対する考えを深めることができた。上級学校の講師や民間企業の生の情報に触れる機会を増やすセミナーを実施することができた。進路委員も講師の案内などで司会進行などにおいて、活躍してくれた。

ウ 学力向上の充実

GTZ（学力到達ゾーン）の D3 判定を 20%減少の目標を設定した。1 年生は 5 月時点で目標を達成することができたが、2 年生については、いわゆる中だるみしてしまったのか、目標達成することはできなかった。来年度の課題としたい。

模試については 3 年生は全員受験をすることができたが、補講については参加者が極めて少ない状況であるため、さらなる進路意識の向上に努めたい。検定の受験については学年掲示板などで受験の呼びかけを例年以上に充実させ意識向上に努めている。各種検定の補助をする裾野チャレンジ制度利用者は 30 名以上で増加傾向にある。

⑤保健相談課

ア 生徒の生命を守り、事故を防止し、救急体制を確立する

保健だよりを月 1 回発行し、啓発に努めた。校内施設・設備安全点検を 2 回実施した。

イ 朝食接種率の向上

昨年度 87.4%に対し、今年度 85%とやや低下した。家庭と連携して接種率のアップにつなげたい。感染症予防のための注意喚起放送を昼休みに実施するなど、保健委員は頑張ってくれた。

ウ 疾病治療率の向上

歯科受診率が 23.8%、眼科受診率が 20%、耳鼻科受診率が 22.7%とやや低調であった。家庭のご理解とご協力が不可欠なので、連携して受診率を上げていきたい。

エ 校内美化の推進

ごみの分別、持ち帰りなどについては徹底できるようになってきている。

オ 生徒の「認知機能」の向上

週 1 回実施しているコグトレは自分の認知機能向上に役立ったと答える生徒の 75%以上が年度当初の目標である。2 月末に成果確認アンケートを実施予定であるが、基本的には継続して来年度も実施していきたいと考えている。

カ スクールカウンセラー（SC）などとの連携

SC年間 75 時間程度実施した。通級指導も 20 時間実施するなど、本校にとっては不可欠な活動である。来年度も継続実施していきたい。

⑥総合学科広報戦略室

ア 各系列の特色の情報発信の充実

Facebookでの配信は6件（五龍祭や修学旅行など）配信することができた。ホームページでは、行事や系列などの取り組みを随時発信することができた。

イ 生徒主体の広報活動の充実

毎月1回発行の「裾野高校だより」には生徒の感想などを随時載せ、裾野高校の鮮度のある情報発信に努めた。生徒自身のコメントや一部ではあれ生徒が編集した項目などを来年度は実施できるようにしたい。

⑦キャリア教育推進室

ア キャリア教育の企画立案、目指す生徒像、校訓の実現に向けた教育活動の実践

校訓「自覚」と、3つの行動規範「挑戦」「変化」「地域貢献」を意識して、キャリア教育に取り組んだ答える生徒が約70%で概ね目標は達成できた。

イ 各学年ごとの探究活動の企画・実行

1年生「地域学」では地域の魅力課題発見、2年生「山陽学」では静岡や広島の社会課題比較検討、3年生「未来学」では自己の将来を主体的・具体的に考える。1年生については地域に愛着を持つようになったと答える生徒が、約90%であり目標達成できた。2年生については社会課題への関心が向上したと答える生徒が90%を超えこちらも目標を達成できた。3年生についても将来の自己のあり方について真剣に考えるようになったと答える生徒が91%を超え、これも目標を達成できた。また、3年間のキャリア教育活動を通じて、思考の深化変容を実感したと答えた生徒が90%を超えたものの、探究活動の実践力の獲得には多くの課題が残っていると考えている。

ウ コアルーブリックにより目指す生徒像の評価基準の統一

コアルーブリック評価を通して本校のキャリア教育実践が目指す*4つの力の習得を意識して、キャリア教育に取り組むことができたと答える生徒が87.9%と目標の60%を大幅に上回ることができた。3年間を見据えたキャリア教育の活動・指導の重要性を再確認することができた。

*4つの力「他者と関わる力」・「自己を高める力」・「学びを使う力」・「将来に生かす力」

エ 毎時間、ワークシートを作成し、記録する活動を通じて何を学び、今後の生活のどの場面にどのように生かすかを考える力を育成する。

毎時間、ワークシートへの記入・活用に関して、約60%の生徒が意識的に取り組んだと答え、記録による学びの積み上げの必要性、重要性を改めて感じた。

オ 掲示物による学びの可視化により、生徒のメタ認知機能向上を促す

自らの学びを振り返る内容の掲示物を見て、学びに対する意欲が高まったと答える生徒が約40%に留まった。さらなる学習意欲換気のための掲示物のあり方を模索していきたい。

カ キャリアファイルの活用と、学びの記録、蓄積による、学習の達成感、自己肯定感

の育成

キャリアファイルの有効性については約 80%の生徒が肯定的に答えており、その有用性が確認できた。自己肯定感については 78.3%の生徒が向上したと答えるなどして横断的・総合的な学習や経験の積み重ねによる系統的な学びが有効であることが確認できた。

質疑応答

室伏委員 ホームページの更新をこまめにやってもらえるとありがたい。

副校長 申し訳ありませんでした。早急に更新いたします。

(2) 学校自己評価報告

副校長 お手元の資料、学校経営報告書の自己評価（案）をご覧ください。

自己評価（案）の説明。詳細はこちらをご参照ください。（PDF を載せる）

質疑応答

山本委員 カリキュラムマネジメントはその学校の特長に合わせて、どの教科を何時間やるかなどを調整していく作業であると考え。教職員の研修を通じてカリキュラムマネジメントがなされたという説明だったが、生徒たちに対して具体的にどのような調整や実践がなされたかを、お聞きしたい。

ワークライフバランスについてだが、有給の取得率が問題ではなく、持ち帰りの仕事がどれくらいあったか、なかったのかというのが本質的な問題である。その2点について管理職はどのようにお考えなのかお聞きしたい。

副校長 カリキュラムマネジメントについては、自分の教科のこのみならず、他の教科の現状を研修を通じて知ることができた。そのことが、カリキュラムマネジメントの第一歩に取り掛かっているものと考えている。将来的には、教科横断的な検討委員会でさらに本格的な議論につなげていきたい。

ワークライフバランスについては、持ち帰りの仕事量については正確にまだ把握はできていない。テスト用紙を家に持ち帰る際には、管理職の許可が必要なことや、多くの先生方がご家庭においても教材研究などを行っているということは想像に難くない。学校での勤務時間が短ければよいというふうには私も考えてはいないです。

山本委員 基礎学力の定着も大事だが、新学習指導要領では創造的思考力の育成も肝要とされている。それらを育成するための授業づくりを考えたり、教材研究をすることは先生方にも大変な負担を強いることになると思われる。持ち帰りの仕事量の把握は今後ますます重要であろうと考える。労務管理上の問題もあるので、実態把握を早急に進めておいた方がよい。

校長 カリキュラムマネジメントについては、まだまだ改善の余地は大いにあります。

思うが、副校長中心に進めてくれている。生徒にとってより良い授業が実践されるように今後も、全校的に取り組みたい。労務管理の問題では部活動が最大の問題であろうと思う。練習をやらないと強化にはならないが、やりすぎると、業務量が増えるジレンマがある。バランスを取りながら進めていきたい。

高橋委員 校則の見直しについて、具体的にはどの程度進んでいるのか。あと、SNS のトラブルが多いように感じるが件数と関わった人数が合致しないのは、一つの件数に対して、複数名の生徒が関わったという理解で良いのか。

副校長 SNS のトラブルについては、その理解で良いです。

高橋委員 交通事故件数の増加も気になる。命に関わることなので、指導を徹底してもらいたい。

校長 事故を起こした生徒の一方的な過失ではないケースも含まれるが、いずれにしても、交通安全指導を粘り強く行っていきたい。

高橋委員 施設設備に関して、整備されていると答えた生徒が 74% という結果だが、具体的にはどのような内容なのだろうか。

校長 事務室の方で、アンケートを行い、それに対して丁寧に事務職員が回答を掲示してくれたので、それらを反映しての数字だと考えている。施設設備はどうしても老朽化が進むので、このあたりの数字に関しては、やむを得ないかなと感じています。

稲垣委員 防災訓練の参加率についてですが、区によっては小中高校生は参加不可な区もあったようなので、一概にこの数字だけでもって判断できない場合もあると思われる。あと、歯科受診率についてですが高校生になると、自分で歯科医院に受診を任せることもあると思うので、保護者向けの文書を作るなどして改善したらどうか。地区にもよるが 18 歳までは治療費が安く済むことなども知らない家庭保護者もあると思うので、PTA 総会などで周知してやることも大事かなと思いました。

室伏委員 私も SNS の使い方が気になりました。高校生ともなると、プライバシーにも親としても気を使うので、この問題は難しいなと実感しています。あと、生徒会の活動満足度が 100% であるというのは、とても、良いことだと感じました。

副校長 貴重なご意見ご感想をありがとうございました。今後の学校経営、改善に生かしていきたいと思います。

(3) 学校関係者評価

副校長 本来であればここで学校関係者評価をまとめるところですが、本日は委員の皆様にご用紙をお持ち帰りいただき、2月20日までに郵送をお願いします。委員の皆様の評価を事務局でまとめ、後日報告するということでご承知おきいただきたいです。よろしくをお願いします。

4 諸連絡

高橋委員 高齢者へのお声掛けの活動を裾野高校の有志団体 Ring がやってくれたのですが、それに続く裾野高校の生徒が中心となった活動として、中学 3 年生を巻き込んだ活動をできればやりたいと考えている。現在、企画立案中なので、そんな活動があるということを知っておいていただきたい。

副校長 中学生と高校生と一緒に活動するということは、放課後や夏休み中ということ想定しているということですか。ボランティアできる生徒ということですか。

高橋委員 そうなります。空き時間でということ考えております。また、ご協力をお願いできればありがたいです。中学と高校と一緒に活動できればとてもありがたい。

5 閉会

副校長 今年 1 年間、ご多忙の中、学校運営協議会にご協力いただきまして本当にありがとうございました。以上をもちまして、第 4 回の学校運営協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。